



第 2972 回例会 No14

2015 年 10 月 20 日

◆例会プログラム

1. 開会点鐘
2. ロータリーソング斉唱
3. 会長の時間
4. ゲストスピーチ
5. 幹事および委員会報告
6. 出席報告
7. ニコニコボックス
8. 閉会点鐘

◆幹事報告

- ・東日本豪雨災害に対する義援金口座開設のお知らせ ガバナー 菅原 裕典
- ・ハイライトよねやま 187
(公財) ロータリー米山記念奨学会

◆第 2971 (10/13) 例会の概要

■会長の時間 佐々木 史昭君

「るんびにい美術館の視察」



昨日10月12日には、日本国花巻市(大迫)とオーストリア・ベルンドルフ市の姉妹都市締結50周年記念行事が賑々しく大迫の地で開催され、私も参加して参りました。1965年10月12日に大迫町から当時町長の村田柴太氏はじめ10名ほどの方がオーストリアを訪ね、姉妹都市契約に調印してちょうど50年が経過致しました。オーストリアと日本との交流の中でも50年という交流はかなり長いようで、昨日もオーストリア日本大使館より大使代理として一等書記官 Konstantin SAUPE 氏が参加さ

れ、花巻も上田市長が実行委員長となる、市及び大迫町ベルンドルフ市友好会が中心の実行委員会を組織し、大変立派な祝賀会を開催しております。今回は高校生8名、引率2名、公式訪問団及び市民訪問団17名、合計27名が来花され、15日まで5ないし6日間、大迫の方々を中心に、大いに交流をして頂く予定になっております。5年後にはこちらから訪問団が行くことになるようですが、私もぜひ行きたいものだと考えています。

さて本日は、午前11時から10名を超える会員のみなさまと共に花巻市のるんびにい美術館を視察して参りました。1階の展示は「グレートマイクロ諸島を巡る旅」と題して、特に緻密で細部への集中があらわれた作品が多く、とても見事なものでした。2階のアトリエでは障がいのある方が芸術活動されている様子を直接見学させて頂き、大変感動致しました。障がいがある方の手による芸術作品はある意味健常者の方より力強くオリジナリティに富んでいて、障がいのある方の生き方や社会的意義を芸術という切り口から再確認し、それを広めていこうという三井理事長の行動は、まさにロータリーでいう社会奉仕を職業奉仕として実践されており、大変素晴らしい事だと思います。

私のるんびにい美術館との出会いは、ホットスプリングスの訪問団を同行案内したことに始まり、2階のアトリエで障がいのある方が活動している様子を見学させて頂いた際、私と同じようにアメリカ人も感動していることに感動したところから始まりました。そのご縁から私事になりますが、弊社今年法人化50年を向かえ11月3日に記念祝賀会を開催致しますが、その際ご参加頂いたみなさまにお渡しする記念品を、るんびにい美術館さんにお願ひし、障がいのある方のデザインによるタンブラー&コースターのセットとトートバッグ、とさせて頂き、ささやかながら地域の社会奉仕に貢献できればと思っているとこ

ろです。

本日のプログラムは、るんぴにい美術館を運営されております社会福祉法人光林会理事長三井信義様にゲストスピーチを頂戴致します。大変興味深いお話が聞けると思いますので、みなさまどうぞご静聴をお願い致します。 以上

◆ゲストスピーチ

『るんぴにい美術館のめざすもの』

社会福祉法人光林会 理事長 三井信義



人間尊重委員会担当、委員長欠席のため、社会奉仕大委員長 笹木賢治君から、講師のご紹介がありました。



■社会福祉法人光林会 理事長 三井信義 氏

(1)るんぴにい美術館が出来るまで

①障がいのある方々のアート

◆山下 清

- ・アートブリュット(生の芸術)
- ・アウトサイダーアート
- ・ボードレスアート

②表現活動・・・陶芸・絵画・音楽・染織・ダンス

*穴窯の会の取り組みがきっかけ

1988(S63)陶芸家の指導で穴窯を造り、地域の愛好家の方々と交流をしながら、作陶・火入れ・作品展を一緒に取り組んできた。

その活動の中で、彼らの造形の魅力に気づかされ、絵画・音楽・織り・太鼓などの活動を広げてきた。アートの魅力は、オリジナリティが評価されることである。障がいがあるからこそ、表現できる世界がある。障がいはひとつの能力であり得る。

③いわて・きららアート協会の取り組み

*1997(H9)、画家・親・教師・施設職員・県職員等の有志が集まり、知的障がいを中心とした方々のアート活動を支援する会を立ち上げ、公募展・サポーター養成研修・巡回展・制作支援等の活動を行ってきた。今年度で18年目をむかえる。

その一つの成果として、3年前にパリ市で開催された、アールブリュット・ジャポネ展に出展した63名のうち、9名が岩手県から選ばれた。(るんぴにいからは3名)

(2)るんぴにい美術館の活動

*2007(H19)、常設展示の場・就労の場・ふれあいの場としてオープン。

- ・ギャラリーとショップは公益事業。
- ・喫茶と工房(10名)は就労継続B型事業。
- ・アトリエ(15名)は生活介護事業。

年間5～6の企画展を開催。福祉基金等の補助金を活用している。

(3)まとめ

◎「福祉のフィルターからアートの視点へ」

- ・支援者が多角的な視点を持つこと

◎「新たな価値(意味)の発見」

- 問題となる行動の中に、必死の自己表現が・・・

◎障がいのイメージを高める⇒理解・啓発

◎福祉教育・・・子供たちに伝えていく



佐々木会長より記念品をお渡ししました。

◆るんぴにい美術館 見学模様

◆例会に先立ち「るんぴにい美術館」を見学いたしました。

企画展 **グレート・マイクロ諸島を巡る旅**

9月11日(金)～12月7日(月)

本展でご紹介するのは、緻密・細密な制作を行なっている方々の様々な表現です。よく目を凝らして見ないと、その深遠な世界は見るできません。

「大きいことはいいことだ」と言われた時代がありました。現在もその考えの影響は、私たちの生活に深く根を張っています。また多くの美術公募展においては、大きな作品が入賞する傾向があることも否めません。

しかし、本展でご紹介する作者はそういった価値観や慣例に伍することなく、自分にあったサイズとして、支持体や画材を選び制作しています。そこに大きさに対する価値づけはありません。そしてそのことがとてもクールでグレートなことです。

細部への集中があらわれた表現という共通項はありますが、それぞれの目指すテーマは大きく異なります。年齢や制作歴も多様であり、あるいは身体や脳機能などに障がいがあったり、作者のプロフィールもまたさまざまです。

異なる自然や文化を持つ小さな島々を巡る旅のように、それぞれの多彩なマイクロとその奥深さをご堪能いただけましたら幸いです。 『企画展 チラシより』



◆10月の慶祝



会員誕生日：谷村 繁君

在籍表彰：吉田和洋君（7年）

31人中14人の出席
出席率 53.9%
前回修正 61.6%
メイクアップ
10/9(金) ASMSA視察報告会
佐々木史昭君、澤田 常夫君

◆ニコニコボックス

☆佐々木 史昭君

社会福祉法人光林会 三井信義様には、るんぴにい美術館からご講演まで貴重なお話を頂戴し、誠にありがとうございました。花巻のロータリアンとすれば必ず知っておくべきお話で、これを御縁に良きおつき合いのほどよろしく願い申し上げます。

☆谷村 繁君

Web 非公開

☆三田 望君

三井さん 講演ありがとうございました。障がいのある子供達のアート作品、素晴らしかったです。共生できる社会になればいいですね。

☆上田 穰君

ようこそ、三井信義君！！

と、いうのも、実は三井君と私は同級生です。皆さん知ってますか？三井君は野球部で、三番、ファーストで甲子園に出場した野球少年だったのです。ちなみに奥様も同級生同士ということでも共通点があります。

☆吉田和洋君

先週は取引メーカー東北の会の記念総会で長崎、佐賀へ行ってきました。ハウステンボスに泊まり三菱造船所や名護屋城跡、唐津くんち展示館を見て呼子のイカを食してきました。三井理事長様、本日はありがとうございました。表現力の素晴らしさに感動しました。

☆鹿討 康弘君

るんぴにい美術館・企画展「グレート・マイクロ諸島を巡る旅」とも感動致しました。緻密で繊細な表現力、その作品群は、どれもみな唯一無二の存在感で満たされていました。次は家族と行きます。

◆前回 第2971回例会のメニュー



『白金豚のカレーライス』



北上和賀 RC から高橋嘉信君(左)

◆次回のプログラム

10月27日(火) ゲストスピーチ

■米山奨学生 温都娜(ウンドナ)さん (米山委員会担当)

◆今後のプログラム案内

11月3日(火) 休会(文化の日)

11月10日(火) 慶祝該当者スピーチ<例会前理事会>

11月17日(火) ロータリー財団月間

■ゲスト地区R財団委員梶浦正氏

(ロータリー財団委員会担当)

11月24日(火) 会員卓話

■ 戸来昭浩君



るんぴにい美術館企画展

『グレート・マイクロ諸島を巡る旅』

2015年9月11日~12月7日

開館時間 10時~17時 休館日 水曜日【入場無料】

◆主催/るんぴにい美術館

◆助成/いきいき岩手支援財団

◆クラブ会報委員：鹿討康弘/多田浩二/佐藤誠吾/鳥畑昭裕/橘川秀治/小山田泰彦/飯塚正晴

◆事務局 〒025-0075 花巻市花城町10-27 花巻商工会議所内 花巻ロータリークラブ TEL /FAX : 0198-41-1133

Mail : hrc@hanamaki-cci.or.jp URL <http://www.hanamaki-rc.com> 記事担当/鹿討